エムイーシーテクノ(福岡県) 哲彦さん

しくするなか、空き時

間には溶接の練習を欠

り、受講者が熱心に耳 ている。別々に行うよ 務や溶接指導に日々忙

学と実技を同時に行っ

と残念がる。

一方で

「一緒に教わった人の

る。自分の仕事に誇り 溶接は天職だと言え

ステンレス、チ が持てるということ

タン、アルミ、銅…。 あらゆる素材を溶接す

> る。15年ほど前には山 人が教えを求めてく んのもとには、様々な

1県からある男性が訪

して指導を行う山田さ

なく、

『溶接は楽しい

的に溶接をやってみな

いか」と声をかけるこ

見込みがあると「本格

もの』ということを知

ってほしい。そして

ともある。

『教わったことは自分

指導者としてもベテ

溶接のマイスターと

う。そして「指導の中

もいる。競争心があり まい」と聞いてくる子 中で自分は何番目にう

を傾けてくれる」と言

で、溶接の基礎だけで

る機会が、山田さんを

の設備工事を手掛ける 育てた。化学プラント

エムイーシーテクノ・

在 1月5

報出版)

2021

ョックを受けた山田さ

で全滅した。大きなシ

若い頃、自身が手掛け 溶接がレントゲン検査 探究心の強さだろう。 に、誇らしさを感じる」 めてきたもの。それは 山田さんの技能を高

れた。 るため』と必死になっ 継いだ鉄工所で溶接す て指導を受け、終わる 「彼は『親から だけのものにしないよ は うに』と伝えている」 指導の中で感じるの 「中堅層の技量が低 まだに難しい。時に、 初めて聞く材料につい ランの山田さんだが 「溶接は奥が深く、

頃にはベテラン溶接士

下していて、後輩にし

て質問されて、持ち帰

社があるのは山田先生 て、昨年には『今の会 談などやり取りが続い 並みの腕になった。そ のおかげ』とメールが の後も溶接に関する相 ものだが、ある時代か 敗しながらうまくなる その背景は「溶接は失 れる人が減った」こと。 っかりと基礎を教えら る」と言う。 く、メーカーの開発に 使われる材料は幅広 って調べることもあ 「溶接に

届いた」と喜ぶ。 らは失敗を避けて無難 な溶接で済ませる傾向 けて、指導者としての る。これからも学び続 より材質も変化してい

第3369号

続けてきた。

た。

岡山に出張した際 協力会社の溶接士

たり、溶接に向き合い

を用意して同じ条件に

んは、就業後にパイプ

段取りして猛特訓し

九州事業所で49年にわ

になった。会社や上司

「アークを出す前に姿 溶接を教えるときは

そして、私が積み重ね 技能も持ち続けたい。

が、部下に失敗させる

てきたことを余さず後

溶融池周辺をきちんと 者は目の位置が悪く、 勢に注意させる。初心 だけの余裕がなくなっ 懸念する。 たのかもしれない」と 若い世代には「1か たちには私を追い抜い 進に伝えられれば、 れが一番嬉しい。

ボードを用意して、座 溶接ブースにホワイト い。また、できる限り 見ていないことが多 ができない子が多い」 きない、自発的な工夫 ら10まで教えないとで て、さらに上を目指っ

越えた今、振り返ると

技術管理員としての業

に選ばれた。

「60歳を

ئے 0

現在は検定試験場

ター、そして今回、日

スター、北九州マイス スター、九州溶接マイ 名工、ものづくりマイ

もらったこともある。

ティグ溶接の棒送りの

愛章をはじめ、現代の 導力が評価され、黄綬

珍しかったティグ溶接

に頼み込んで当時まだ

のローリングを教えて

得した。 高い技術と指 **耐競技会で準優勝も獲** その間、全国溶接技

本溶接協会マイスター

アノの練習にも励ん 技術に生かそうと、ピ